

令和4年度の予算ヒアリングがスタートしました。

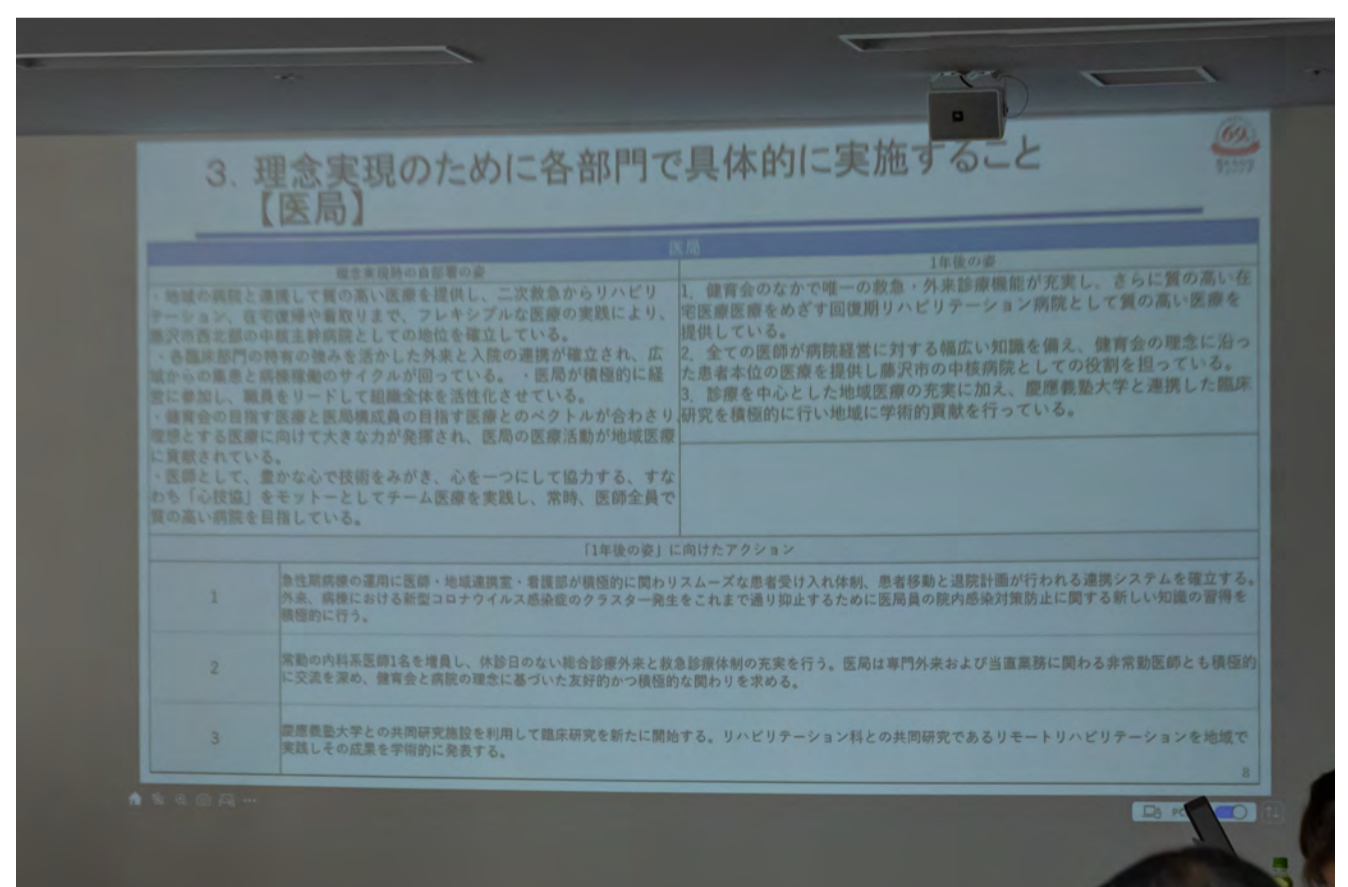
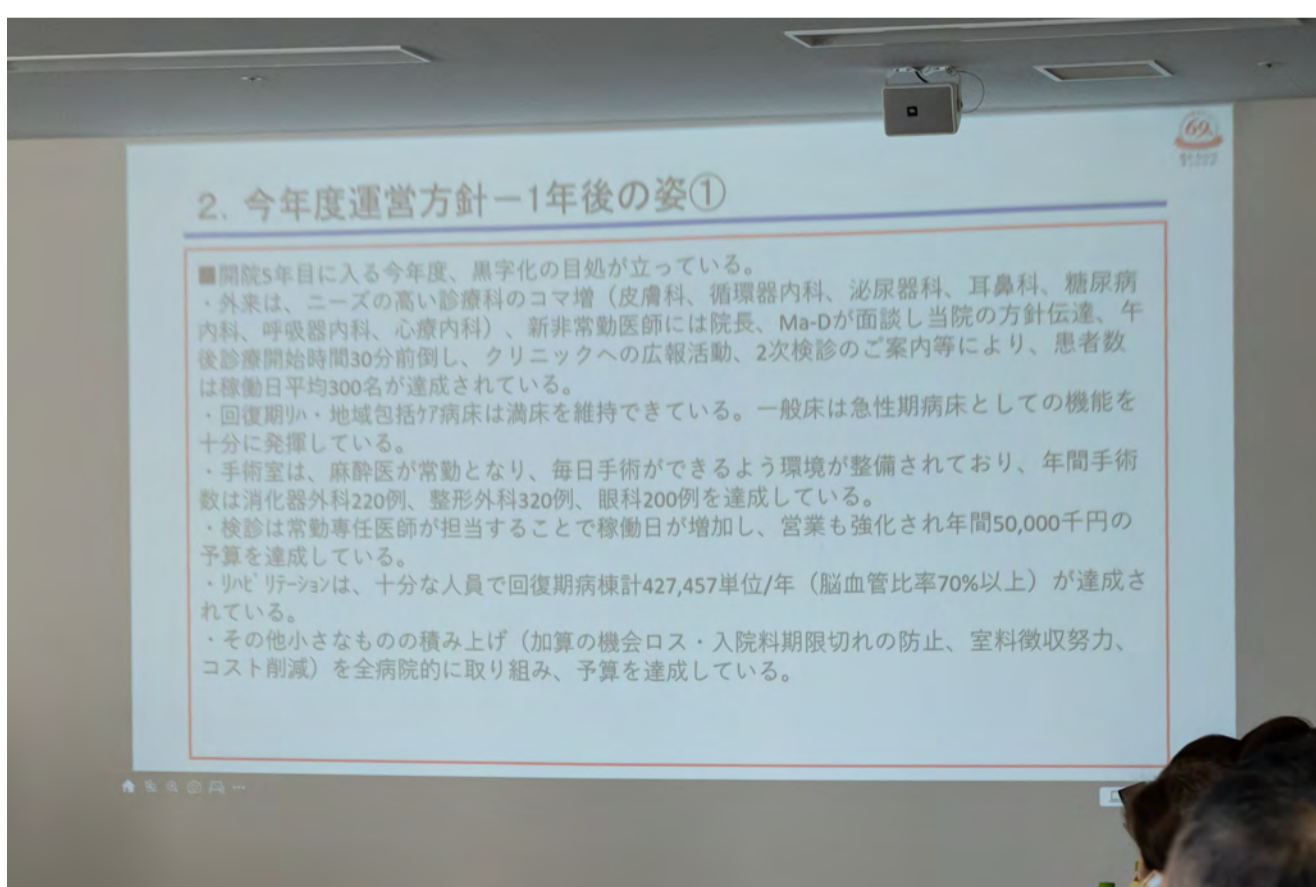
医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



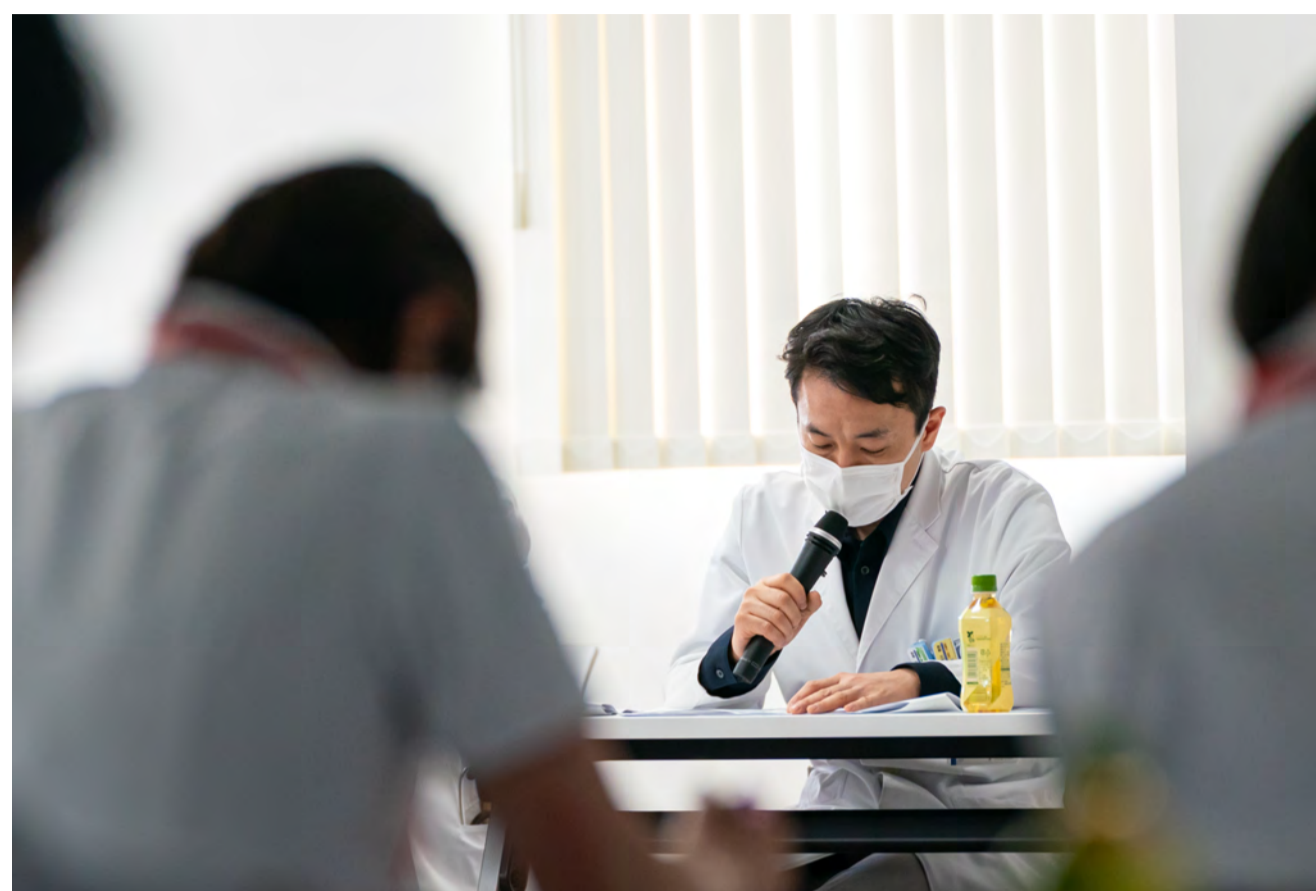
今年も健育会の全ての病院・施設で、年度当初の予算ヒアリングがスタートしました。私と本部の幹部が直接病院、施設を訪問して、今年度の運営方針を聞き、ディスカッションを実施しています。

毎年、年度当初に設定する予算は、単なる数値目標ではなく、各病院・施設が会計年度内に達成すべき、経営上のコミットメントという意味を含んでいます。そのため非常に重要な位置付けとなっており、私は毎年全ての病院・施設に直接足を運んでヒアリングを行っています。

具体的に予算ヒアリングにおいてはまず、「理想実現時の自部署の姿」、「1年後の姿」、「1年後の姿に向けた具体的なアクション」という3点を重要視しています。事前に、各病院・各施設のメディカルディレクターやマネージングディレクター、各部門長にこれらの内容をまとめてもらい、書面にしてヒアリングに臨みます。



そして私をはじめ、副理事長や管理部部長などと一緒に、細かな疑問点や改善点をぶつけ、現場の声である部門長の話も聞きながらディスカッションを行い、現状のリアルな状況を把握しています。



何より現状の問題点をしっかりと把握し、スタッフ全体で話し合って作られたものかどうか、それが1年後の姿やそれを具現化するアクションとしてきちんと反映されているかどうかを確認しています。そしてアクションのそれぞれが、タイムスケジュールに落とし込まれているかも非常に重要なポイントとなります。



昨年度は、新型コロナウイルスの影響を受けた施設があり、予算達成が叶わなかった施設もありました。減収減益や人件費増加の問題も浮き彫りになっています。厳しい状況ではありますが、そうした中でも単純に人件費を増やすのではなく、何を目的に増員を行い、その分の経費をどこで回収していくかが重要になると思います。

また1年後の姿は、抽象的な理想や理念も入ってくるため、実際に達成できたかどうかの評価も難しくなります。できるだけ実現できたかどうかをわかるように、工夫していくことも大切です。



何より私が一番大切だと思っているのは、スタッフ1人1人の心を豊かにすることです。限られた人員の中で、無理無駄のない効率的な運営を実現し、最大の成果を確保する、という目標はどの病院・施設でも欠かすことができないものです。例えば訪問看護の分野でも、日本全体の介護マンパワーが不足する中、限られた人員でいかに最大のパフォーマンスを出すかが課題となります。

しかし実際にこれらを達成するのは、現場で働くスタッフたちです。そして、これらを目指すほど、スタッフに負荷がかかってきます。我々が今年の目標として掲げる「豊かな心でチャレンジ」、「愛情を持って親身な対応」は、スタッフ一人一人の心が豊かでなくては実現しません。ですから、幹部の人たちは効率を追求する部下たちの心を豊かにすることも忘れないようにしてほしいのです。